

OKoTaC 通信 NO.10

2013 年 4 月 10 日発行

オコタツリ



目次

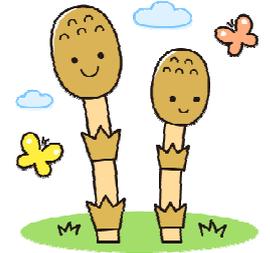
第 10 号記念特集 『OKoTaC 通信へ～会員からの声』	p2～3
ころちゃんお役立ち情報(2)	p4
『スペイン語版さんすう教材』	
地域の子ども支援教室から⑩	p5
『四條畷市にほんご教室』	
Air Mail メキシコ便り⑩	p6
『メキシコ文化事情』	
NPO活動報告 『高校生活オリエンテーション』	p7
ご寄付ありがとうございました	p7
イベント情報(1)(2)	p7～8
総会のご案内	p8



第10号記念特集

「OKoTaC 通信」へ ～ 会員からの声 ～

「OKoTaC 通信」も今回で10号を数えます。本来なら豪華なカラー刷りで大特集を組むべきですが、ご存じのように現在の財政状況ではそんな贅沢なことはできません。そこで、編集部では内容だけでも記念号にふさわしいページを、と考え、会員の方から「OKoTaC 通信」へのご意見、感想をいただくことにしました。編集部からの呼びかけで何名かの方が応えてくださいました。投稿してくださったみなさまにはお礼を申し上げます。



OKoTaC 通信いつも楽しみに拝見しております。私は大阪市内の中学校で日本語教室を担当しています。外国にルーツを持つ子ども達に日本語を教えています。その子たちの姿を見て、背景を考えると、その課題の多さにうずくまってしまう毎日です。一教室内でほそぼそと取り組みをしている私にとって、大阪全体のことを知ることができたのがもっとうれしいことです。高等学校や地域の取り組みは私に元気を与えてくれました。

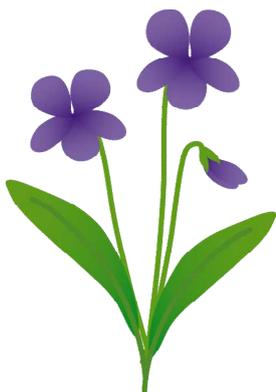
また、Air Mail や海外子ども事情を読むと、ほっとした和やかな気持ちになるのも不思議でした。きっとすべての記事に「心」があったからだろうと思います。ありがとうございました。

さて、日頃疑問に思っていることをひとつだけ。それは生活言語と学習言語についてです。学習言語習得に5～7年という捉え方が教科指導への取り組み姿勢をマイナスにしているという危惧をもっています。この辺りに関することをどこかで載せていただければと願っています。

(Y.I)

OKoTaC 通信を拝見するたびに、こんな私にもできることはないか、との想いが募ります。外国の方々に日本語や文化を理解してもらおうと同時に、我々も彼らを受け入れるべく、知り・学び・自らが変わっていく努力が必要だと思えます。そのためにも、外国の人たちとの交流の場を提供して頂けたらうれしいです。そして、OKoTaC の存在を広く知ってもらいたいので、これからはミッションに励みたいと思っています。

(H.N)



ふだん外国ルーツの子どもと関わりのある仕事をしていても、自分と直接関係のある活動以外はなかなかその様子を知ることができないので、「多文化な子ども@大阪のニュース」、「地域のこども支援教室から」は、ありがたい情報源です。また、最近連載されていた「国勢調査に見る外国人の教育と社会環境」は読みごたえがありました。今後は当事者である子どもたちに直接インタビューしたり、活動報告を書いてもらったりして、子どもたち自身が表現できるような場も作ってもらえるといいなと思います。

(F.Y)

オコタック通信は毎回楽しみにしています。せっかくの機会なので、日頃から思っている改善点を述べたいと思います。

① もっと「気軽に」読めるようにしてほしい

この通信を読み始めるときは「気合い」が必要です。理由は字数が多いからではないでしょうか。読み始めるとき「気軽に」読めるようにしてほしいと思います。

② 写真が少しわかりづらい

③ 字を大きくしてほしい

①でも書いたように紙面をみると細かい文字がびっしり詰まっているように思えます。

④ 外国にルーツを持つこどもの情報や日本語指導に関するインフォメーションを増やしてほしい

⑤ 外国の事を知ることができる情報や異文化体験ができる機会の情報を増やしてほしい
(T.K)

行事への参加者や書き手の気持ちが伝わってくるような記事に、いつも楽しませていただいています。発行回数が増えればいいなとも思いますが、通信を作っておられる人の顔が浮かびますので、あまり無理も言うまい……。

だけど、そのためにもっとネットワークを広げることが必要なのでしょうか。そして、一人一人が受け手であるばかりでなく、発信する人に！
(K.A)



『OKoTaC 通信』をメールに添付したものと郵送でも頂いていますが、郵送は希望者だけでいいのではないのでしょうか。経費節減にもなりますし、最近はどこも会報の電子化が進んでいるようです。出来れば、HP でも見られるようにすれば、活動をより広く発信できると思います。会員への特典は、会報誌の配布ではなく、他のことを考えてはいかがでしょうか。
(Y.K)

みなさまの貴重なお声にひとつずつ答えていくべきところですが、今回は掲載のみにさせていただきました。寄せられたご意見は、これからの紙面作りに必ず生かしてまいりたいと思います。年度末のお忙しいときに寄稿いただき、誠にありがとうございました。

(編集部一同)



ころちゃんお役立ち情報(2)『スペイン語版さんすう教材』

編集部より

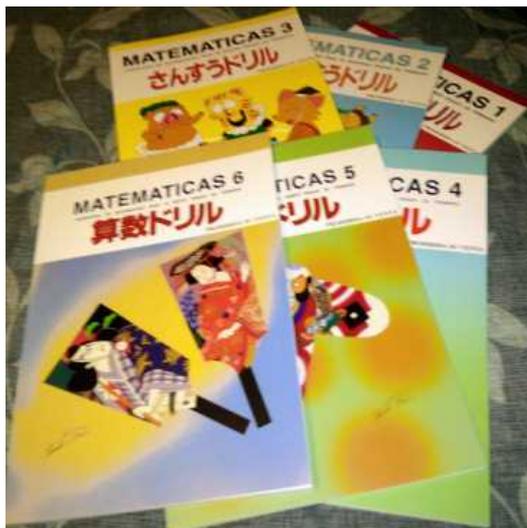
前号から新設したこのコーナー。今回は当 NPO おおさかこども多文化センターの理事の一人、坪内好子さんにお願しました。坪内さんは1号の「地域の子ども支援教室から」でお伝えした『サタディクラス』も運営されています。

～中南米のスペイン語圏出身の子どもたちとママたちに～

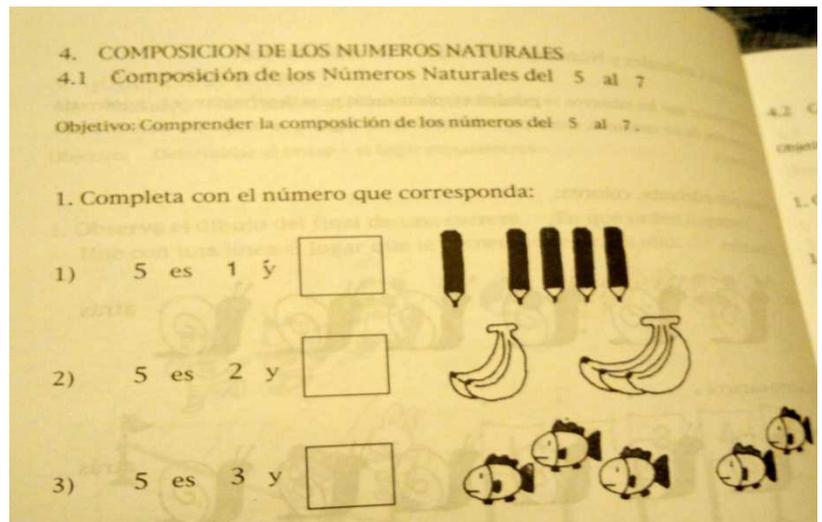
ひと頃に比べこの数年来、子どものための日本語教材はずいぶん増えてきて、子どものニーズに合わせて選択できるようになりました。しかし、言語によってはまだまだ教材が少ない場合もあります。大阪では数が減ってきたスペイン語圏の子どもたちですが、少数であればこそ意識的に丁寧に対応する必要があると考えます。

今回ご紹介するのは、日本生まれの子どもたちや、小学校年齢で日本にやってきた子どもたちが、保護者と一緒に勉強できる教材です。特に、日本で生まれ、日本語に慣れている子どもたちでも、家庭ではスペイン語を話します。そのため家族とのコミュニケーションには困らない彼らにとっても、スペイン語での読み書きはとても大変です。また、保護者にとっても日本語で書かれた教科書に沿って子どもに教えることは難しいことです。その点この教材は日本の教材を使い、スペイン語に訳してあるので親子で勉強できるよい教材だと思います。

これは、「大阪ラテンアメリカの会」が、算数ドリル(文溪堂出版)をスペイン語に翻訳し、ペルーの子どもたちに毎年配布し、分かり易い内容と日本文化を感じてもらおうよう工夫された表紙に、好評を得ているものです。市販されていないので HP 上でお問い合わせください。(坪内好子)



表紙



内容例

<取り扱い先>

大阪ラテンアメリカの会(CALO)〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-12-6(梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX:072-728-6636

銀行口座:三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270 郵便振替:00980-0-57563



『四條畷市にほんご教室』



四條畷市は、大阪府の東北部に位置し、市域の約2/3が北生駒山地でしめられている緑豊かなまちです。

歴史は古く、平安時代に市内を南北に走る東高野海道に沿う交通の要所地として栄え、かつて河内平野が海だった頃、遠く朝鮮半島から船で運ばれてきた馬の完全な形を保ったままの骨格や二千年前の人骨、日本最古といわれる田原城主・田原レイマンの名が刻まれたキリシタン墓碑など、古^{いにしえ}のロマンあふれる品が多数発掘されている地でもあります。人口は57,000人あまり。外国人住民の数は1%にも満たない小さな市ですが、市教育委員会所管の日本語教室と、外国にルーツを持つ子どものためのキッズ教室が、それぞれ一つずつあります。

キッズ教室は、2010（平成22）年5月、外国にルーツを持つ子どもの数が増えたことから、子どもたちの学習環境を整備するため、それまで大人と一緒に学習していた教室から独立する形で創設しました。教室は毎週金曜日、午後6時30分から8時までで、アメリカ、韓国、タイ、中国、日本、ニュージーランド、フィリピン、ペルーなどにルーツを持つ、未就学児から中学生まで10人程度が学習しています。最近では、国際結婚により諸外国で生まれ育ち、第二の母国として渡日する、日本語が話せないダブルの子どもたちも増えています。

学習形態は、子ども1～2人に対しボランティア講師が一人付き、前半は宿題を中心に科目ごとのドリルやプリントでの復習、後半はそれぞれがやりたいことを中心に進め、得意の絵やマンガを描いたり、ゲーム本で情報交換するなど、思い思いに楽しく過ごします。教室は、いつも子どもたちの笑顔と笑い声であふれ、学習が進まなくなることもしばしばです。



このような子どもたちだけの学習の場ができたことにより、同じ立場の子どもが互いに刺激し合い、交流しながら楽しく学習することで、日本語が上達し理解力も深まり、勉強の習慣性や学習心の向上につながっています。夏休み期間中は、「夏休み宿題キッズ教室」として毎週木曜日、宿題や絵日記、工作、読書感想画・文、自由研究など、それぞれの国による教育システムの違いでなかなか馴染みのない課題にも、みんなでお弁当を持ち寄り（可能な範囲で）一緒に取り組みます。

またキッズ教室単独のイベントはありませんが、子どもたちは大人の教室が実施する「お花見」「浴衣de盆踊り」「国際交流わくわくパーティー」等に、普段は送迎のみの外国人保護者と一緒に参加します。この取り組みは、子どもたちの学習の度合いや教室での様子を講師と情報共有したり、孤立しがちな外国人保護者に、教室に通う同国の学習者との情報交換や交流などを通じて不安を取り除き、にほんご教室への理解と日本語学習環境の必要性を認識してもらうのが目的です。

教室は、本来の子どもの力を引き出し、自信や考える力、コミュニケーション力を育む貴重な交流の場として、子どもたちにとってはなくてはならない空間です。これからも、保護者、学校、市教育委員会など関係機関と協力・連携して、子どもたちの声に耳を傾け、彼らの自律を促し自発的な学習に取り組める環境を創るなど、地域における教室で、子どもたちの学習支援を続けていきたいと考えます。

（四條畷市にほんご教室コーディネーター 藪田 裕美子）

連絡先：〔住所〕〒575-0052 四條畷市中野3丁目5番25号 〔電話〕072-879-3939

〔FAX〕072-877-5200 〔メール〕kouminkan@city.shijonawate.lg.jp



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑩ 「メキシコ文化事情」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

メキシコ・シティーの3月、4月は街中に薄紫色のハカランダがあふれます。ちょうど日本の桜のようです。ただ桜は1週間ほどで、はかなく美しく散ってしましますが、ハカランダはその名に反して？2ヶ月くらいは咲いています。落ち方も桜のように舞うのではなく、大粒の涙が落ちるように、ポトリポトリと散っていきます。花の形はちょうど小さな釣鐘のようです。しかし、散ったあとの木の下は、さながら紫のじゅうたんで、とてもきれいです。この木を見ながら私は日本の春を懐かしく思い出していました。でも誰もこのじゅうたんの上でお弁当をひろげることはしないので、やはりここは日本ではありませんでした。

メキシコの気候は乾季と雨季の2期で、はっきりとした春夏秋冬はないのですが、メキシコ・シティーの朝晩は、1月、2月はコートがいるくらい冷えます。でもそれも3月、4月になるとずいぶんとやわらぎ、コンサートやダンスなどのイベントが毎日どこかで、催されるようになります。日本ではおおよそ人が入りそ

うにない前衛的なパフォーマンスや美術展でも人は来ます。ここでは古典から前衛までさまざまな作品に触れる機会が安価で、すぐ手の届くところにあります。そして、どのように前衛的で実験的であってもそれを受け入れる土壌がここにはあります。無料の催しも多く、仮に有料でも値段がとても安いのです。たとえば先日行ったジャズコンサートなど、壁画で飾られたすばらしいホールであったのですが、学割で半額になるので、20ペソ(200円)です。そのあと行ったコンテンポラリーダンスは30ペソ(300円)、アフリカ映画祭の映画は15ペソ(150円)でした。普段でも



映画は45ペソ(450円)、水曜日は日本のように女性だけでなく男性も半額で23ペソ(230円)です。メキシコに点在する多くの遺跡も一部を除いて学生と教師は無料です。博物館や美術館も15ペソ(150円)くらいから70ペソ(700円)までいろいろですが、これも学生と教師は無料や半額で、日曜日は一般の人でも無料です。そのためでしょうか、日曜日は多くの親子連れを美術館や博物館でみかけます。先日もチャプルテペック城のなかにある国立歴史博物館に行ったのですが、父親が展示物の前で、熱心に子どもにメキシコの歴史を語っていました。

メキシコの古代文明の歴史は紀元前13世紀、オルメカ文明から始まりますが、1519年、エルナン・コルテス率いるスペイン軍の侵略、1810年、イダルゴ神父による独立運動、1910年から始まったメキシコ革命など、メキシコは激動の歴史をたどってきましたが、独立運動や革命のヒーローたちのレプリカの前で、子どもに熱心に話している父親の姿はほほえましくも頼もしく、子どもはうなずきながら父親の話を一生懸命に聞いていました。きっとお父さんは物知りで偉いのだと尊敬していることでしょうね。日本では父親が日曜に博物館に子どもを連れて行き、日本の歴史を教えるなどという姿をあまり見たことがないので、このような光景を見るにつけ、メキシコと日本の家族のあり方の違いを感じると同時に、ひょっとするとメキシコは文化に関しては、日本より豊かな国なのではないかと思いました。というのは子どものころから親につれられ、色々な音楽や絵画、伝統にふれている子どもたちの中にはきっと広く、豊かな感性が育っているでしょうし、そんな子どもたちが将来、表現者になったり、批評眼をもった観客になったりしていくのではないかとと思われるからです。地方には何千年も続く伝統文化があり、都会では数々のすばらしいホールや屋外施設のなかで、常に新しい試みがなされているメキシコ。新しいものと古いものが混ざり合いながら、懐の深い豊かな文化がここメキシコでは根付いているのではないかと思いました。





おおさか子ども多文化センター 活動報告

『高校生活オリエンテーション』

今年も恒例の「高校生活オリエンテーション」が大阪府教育委員会・大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご)共催で3月30日(土)、府立今宮工科高校で開かれました。これは4月から府立高校に入



学する帰国生や外国にルーツを持つ生徒を対象とするものですが、生徒 22 名、保護者 19 名、通訳 14 名、その他教育委員会、教員、ボランティアを含めると 80 数名が視聴覚教室に集まりました。日本の高校の様子や府立外教主催の年間イベントなどの紹介があり、生徒たちは高校生活を始めるうえでの不安感を多少でも和らげることができたのではないのでしょうか。そんななか、参加生徒のアンケートでもっともよかったと答えてくれたプログラムが3人の先輩による話でした。その中でも特に友達の大切さについて語られていたことが印象に残っています。

一方、別室では各校の担当者を対象に長吉高校の柳澤先生による日本語指導方法についての話や、担当者からの相談などがあり、今年初めて日本語指導をするという教員にとっても有意義な機会になったのではないのでしょうか。(Y.H)



イベント情報 (1)

『新入生歓迎！高校生交流会』(大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)

府立高校に在籍する外国にルーツを持つ高校生を対象に、新入生を歓迎する催しです。毎年200名前後の高校生、教員、ボランティアが参加します。参加希望の高校生は各高校の担当者を通じて府立外教に申し込んで下さい。(詳細未定)

【日 時】 2013年5月25日(土) 午後

【場 所】 大阪府立桃谷高等学校

(JR環状線桃谷駅下車、東南へ約1km)



おおさか子ども多文化センターより～ご寄付ありがとうございました！

昨年に引き続き、24年度も多くの方々からの寄付をいただきました。

ご存じのように、財政状況は決して楽観できる状態ではありませんが(創立以来の悩みです)、

みなさまのご協力とご支援のおかげで、どうにか赤字を出さずに運営を続けることができています。

この紙面を借りて、平成 24 年度(2012.4.1～2013.3.31)にいただきました寄付のご報告をさせていただきます。

(50音順・敬称略)

ご寄付者名: 李聖淑、伊東和子、伊藤秀子、上谷博、鶴飼聖子、小川裕之、桶谷仁美、金光敏、澤田幸子
兎内香保留、内藤路美、梨木亜紀、橋本昌樹、橋本義範、村上白子、安田乙世、柳澤勤

〔計23件 総額 497,620 円〕

切手・書き損じハガキご寄付: 内田美由紀、荻田由美子、野口良恵、ほか 1 名

その他物品ご寄贈: 梶田雅子、佐藤トウイウエン





イベント情報 (2)

～ヒューライツ大阪・おおさかこども多文化センター 共催セミナー [3回シリーズ]～

第1回「外国籍のこどもの教育～高校進学・卒業という壁」

日本経済が低迷し、日本国内で貧困が拡大している状況のなか、とりわけ非正規雇用で就労する外国からの移住労働者の貧困も顕在化してきています。移住者の失業や貧困化は、その子どもたちの教育、そして進路に大きな影響を与えます。

セミナー第1回目は、国勢調査に基づきさまざまな角度から外国籍の子どもたちの高校および大学への進学・通学率について実態分析をしている徳島大学の樋口直人さんにお話しいただき、「負の連鎖」につながらないためにはどのような教育保障の可能性があるのか、ともに考えていきたいと思えます。(樋口さんには『OKoTaC 通信』7～9号で、「国勢調査にみる在日外国人の教育と社会環境」を連載執筆していただきました)



【日 時】2013年4月27日(土)午後2時～4時

【場 所】ヒューライツ大阪・セミナー室 (大阪市西区西本町1-7-7 CE西本町ビル8F)

*おおさかこども多文化センターが入っているビルの、同じフロアです。

【報告者】樋口 直人さん(徳島大学総合科学部准教授)

【資料代】500円(「おおさかこども多文化センター」と「ヒューライツ大阪」の会員は無料です)

【主 催】ヒューライツ大阪、おおさかこども多文化センター

【問合せ・申込み】(資料準備のため4月25日までにお知らせください)

ヒューライツ大阪(一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター)

TEL:06-6543-7003、FAX:06-6543-7004 Eメール:webmail@hurights.or.jp

※第2回目は6月22日(土)午後2時～4時、横浜のNPO法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾センター長、竹川真理子さんによるセミナーの予定です。詳細はHP、会員にはメール等でお知らせします。

会員の皆さまへ～ 総会のお知らせ

おおさかこども多文化センターの2013年度総会を、5月24日(金)午後6時30分から、当NPO事務所のあるCE西本町ビル(下記地図参照)8階にて開催いたします。

(正会員は総会への参加・議決権、賛助会員は参加権があります。ご案内はまたあらためてお送りします)

できるだけ多くの方々に参加していただければと願っています。

狭いながらも楽しい事務所(?)にも、ぜひお立ち寄りください♪

NPO法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE西本町ビル8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼ 味)キョウ)

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』
(ワガサ:トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター)

